令和４年度　葛飾区学力調査（４年生）結果の分析

【国語】

・基礎問題・応用問題ともに、区の平均正答率を２ポイント近く下回る結果となった。領域ごとに平均正答率を比較・分析し、国語に対する興味・関心を高める活動を充実させながら指導を重ねていく必要がある。

○「言葉・情報・言語文化」の領域では、区の平均正答率を１ポイント下回ったものの、漢字の読みやローマ字表記を選択する設問では、区の平均を上回った。また、漢字の書きについては、学年児童の75%において８割～９割の正答率であった。しかし、文章の中心となる一文や指示語を選択する設問は、２～３ポイントほど区の平均を下回った。言葉の特徴を捉え、正しい使い方が身に付くような学習を繰り返し行っていく。

▲「話すこと・聞くこと」の領域では、区の平均正答率を3.1ポイント下回った。話の内容を正しく聞き取ることにやや課題がある。話し手の思いを考えたり、メモを取ったりしながら話を聞く習慣が身に付くように、国語科の授業だけでなく様々な学習活動の中で指導していく。

▲「読むこと」の領域では、区の平均を下回る平均正答率であった。また、登場人物の心情を記述する問題は、学年全体の20%が無解答であった。国語科の授業の中で、登場人物の心情を読み取り、言葉や文章で表現する活動を増やしていく。

▲「書くこと」の領域では、区の平均正答率と同等の結果となった。区の平均よりも0.6ポイント上回ったが、35%の平均正答率であった。また、本を紹介する文章を記述する問題は学年全体の30%が無解答であったことから、読書量を増やし、様々な言葉を活用して本の内容のよさを伝えるための表現力を付ける学習を今後も取り入れていく。

【算数】

・教科総合では、区の平均正答率と同等の結果となった。「思考・判断・表現」の観点においては、区の平均よりも0.8ポイント上回る正答率であった。数量の関係に着目して思考したり、単位の関係を統合的に考察したりする力を確実に身に付けられるよう指導していく。

○「数と計算」の領域では、全国や区の平均正答率とほぼ同等の結果であった。乗法の計算問題では、全国の平均の12ポイント、区の平均の６ポイントも上回り、計算力が定着していることが伺える。反面、大きな数の設問では、全国や区の平均を13ポイントも下回った。大きな数の表し方に課題がある。基本的な事項にさかのぼって復習し、正確に表記できるように指導をする必要がある。

○「図形」の領域では、区の平均正答率を2.6ポイント上回った。中でも、円の直径を求める設問や角の大きさを比較する設問は平均正答率が高く、全学年までの学習内容がしっかり理解できている。

○「データの活用」の領域では、区の平均を1.3ポイント下回ったが、全体的に90%前後の平均正答率であった。様々な観点から棒グラフを読み取る力を付けていくと共に、求められていることを正しく捉え、解答できるように今後も指導を重ねていく。

▲「測定」の領域では、区の平均正答率を7ポイント下回った。時刻や重さの測定については、学年間で正答率に差があるため、つまずいた内容を確認し、習熟度別指導や個別指導を充実させていく。